

韓国語概観

韓国語、ハングル、吏読、漢文、アルタイ語族(アルタイ諸語)、膠着語、屈折接尾辞(語尾)、母音調和、頭音規則、副動詞、音韻対応、文法形態の一致、SOV言語、後置詞的言語、左側連結型言語、敬語法、韓国語母音の特徴

1. 韓国語の分布

韓国語は韓半島全域で、韓国人全てが母國語として使用する言語である。韓國國民はその民族も単一民族であり、その言語も単一語であることを誇りとしてい(→おり)、韓國は明らかに単一言語社會である。生まれた時から全ての人が韓国語を母國(→母國語)、即ち第一言語として學び、一生の間韓国語だけで意思疏通をして生活する。小學校から大學まで一つの國語で授業を受け、各種の放送も韓国語で行われる。

韓国語はあまり知られていない割には、その使用人口は相當多い方である。現在(2004年末基準)韓國の人口が4800萬名、北朝鮮の人口が2300萬名、計7100萬名が韓国語を使用している。この數字は使用人工がイタリア語とほぼ同じ水準であり、世界で13位から15位ぐらいに該當する。Crystal(1987)によると、韓国語は使用人口が7000萬名に達し、イタリア語とともに15位に入っている。13位の二つの言語が使用人口が7000萬名になっているので韓国語の順位はこのあたりになる。少なくとも15位の中に入るので、韓國は言語の使用人口で見ると國土の大きさとは異なり強大國に屬すると言えよう。

韓国語は韓半島以外に海外の同胞の間でも廣く使用されている。2005年を基準とするとアメリカに215萬名、日本に69萬名、中國に244萬名がその最たるものだが、特にアメリカのニューヨークとロサンゼルスにはコリアンタウンがそれぞれ形成され、韓国語の看板まで掲げた商店が林立し独自の韓国語新聞が発行されるほど韓国語の保存がなされ、中國は延辺朝鮮族自治區を中心にアメリカよりも、より完全な形で韓国語が保存されている。

そして舊ソ連地域にいる同胞も53萬名に達し、彼らの間でもまだ韓国語がその生命力が維持されており、中南米やカナダのほうでも相當數の同胞が韓国語を使用している。中南米に10萬名、カナダに20萬名、歐洲に11萬名(ドイツに3萬名)、その他にも13萬名ほどが韓国語を使用している。そして近年國力の成長により外國人にも韓国語の普及が少しずつ擴大している。

2. 韓国語の文字

韓国語は早くから文字に記録されてきた。韓国固有の文字であるハングルが創製されたのは1443(または1444)年である。この時から韓国語は完全な音素文字によって記録され始めその資料が今まで多く伝えられている。

しかし、その以前にも早くから中国から漢字を取り入れて使用し、漢字による文字生活を活発に行った。韓国は世界最初に金属活字作って使用した民族である。即ちドイツのグーテンベルグが金属活字を作って使用した1440年頃よりずっと前である、1234年に金属活字で本を刊行したという記録があり、また1377年に金属活字で刊行された文献が現在フランスのパリ国立図書館に所蔵されている。この時の活字は漢字であり文章は漢文であったが、言うならば当時の韓国の文字言語は音聲韓国語とは全く異なった漢文であったが、このように早くから活気のある文字生活をしていたのである。

このように活発な文字生活は、それがたとえ漢字によるものであっても韓国語の記録にも寄与したであろうことは想像に難くない。

韓国人は既に三國時代から漢字の音と訓を借りて韓国の人名や地名などを表記する手段を開発しており、新羅時代には郷歌という形式の韓国語の詩を全てこの方式の表記法で咀嚼するまでに至った。漢字の音と訓を借りて韓国語を表記する表記法がいわゆる吏讀、韓国語は吏讀によって記録されたことを計算に入れると、早くは5世紀頃から文字によって記録された言語である。しかし吏讀によって記録された資料は多くなく、この表記法は後世になるとむしろ萎縮し、文字言語は殆んど漢文でなされ、最も完全な韓国語の様子を呈した郷歌もかろうじて25首のみ伝えられているためである。従って全面的な形で韓国語が記録により伝えられるようになったのは、ハングルが創製された15世紀からと見るべきである。近年FM,CD,VTR,FA,KBS,MBCのようなローマ字が少しずつ勢力を広げている。しかしこれは韓国だけの現象ではない、韓国はやはりハングルという韓国固有の文字によって文字生活を営む國であると言えるであろう。

3. 韓国語の系統

韓国語は依然その系統がはっきりとしていない言語である。しかし多くの韓国の學者はラムステットやポッペのようなアルタイ語學者の見解によって、韓国語がアルタイ語族に屬する可能性が大きいものとされている。ラムステットを含めた西歐の學者の業績が西洋でも認められている一つの例を次の一節で知ることができる。‘これらの様相が學者達によって支持されていることを考えると、アルイ語族自體は正當で特有のグループとして認められているという結論に達することができる。韓国語がこのアルタイ語族に屬するということは、かなりの支持を得ている。従来では韓国語がウラルアルタイ語族に屬するという説が廣く浸透し

ており、現在でもこの説に傾倒している人が多いが、現在の學會でウラルアルタイ語族はその成立は認められないのである。従來のウラルアルタイ語族はそれ以上存在しておらず現在ではアルタイ語族とフン-ウゴル語族が存在するのみである。即ちトルコ語、モンゴル語、ツングース語など伝統的なアルタイ語族の三つの語群のような密接な関係ではないが、これらのような語族を形成し、それらの中ではツングース語と最も近い関係にあるものと推論されている。

韓國語は残りのアルタイ諸語と偶然とは見なし難い共通の特徴を持っていることが、早くから注目されてきた。まず言語を孤立語、屈折語、及び膠着語に分ける分ける場合、韓國語はアルタイ語族と共に典型的な膠着語に屬する。語幹に屈折接尾辭が規則的に結合する言語である。また母音調和がある。一つの單語の中で陽母音は陽母音同士、陰母音は陰母音同士で結合する。いわゆる頭音法則もある。單語の一番最初にㄱの音が來ず、子音が二つ、あるいはそれ以上が重なることもない。關係代名詞がなく、接續詞もない。動詞が語尾を支配し、印歐語の關係代名詞や接續詞が處理する。特に副動詞を構成し、接續詞が行うことと担う。以上の、ような韓國語の特徴が、そのままアルタイ諸語に全て適應されるのである。

具體的な語彙及び文法形態の比較でも注目に値する成果を得ている。一つの例として次の例文(1)のような比較で古代韓國語のaとアルタイ祖語の*aの間の音韻對應を證明したことがその例である。

- (1) 中世韓國語 아래(<*al), エベンキ語 'alas(脚)', モンゴル語 'ala(股ぐら)',
古代トルコ語 'al(下向)', 中世トルコ語 'altin(아래 下)'

また子音の場合も次の例文(2)のような比較で韓國語ㅍとアルタイ祖語 *p, *b, の間の音韻對應を樹立するに至った。

- (2) 中世韓國語 'ㅍ-' (注), 滿洲語 fusu-(水を注ぐ), 蒙古語 'üsür-'(注ぐ,湧き出る),
トルコ語 'üskür-'(口から吐く)

文法形態の中でも、かなり一致している點が明らかになっている。韓國語の方向表示の處格助詞'로'が古代トルコ語'ru'や蒙古諸語の'ru'と比較によってアルタイ諸語の'*ru/ru'を再構することがその一つである。動名詞語尾'*-r, *-m, *-n'の一致は特に韓國語とアルタイ諸語間の親族關係の樹立に大きな役割をするものとして明らかになった。

このようにして韓國の學者達はほかでの評價とは異なり、韓國語がアルタイ語族に屬する可能性を一般的に高く見ている。古代資料の不足である(→古代資料が不足しているため、一定の)限界は痛感しながらも韓國語がアルタイ語族以外の語族に屬する可能性に對しては、再考する必要はないものと見ている。アルタイ諸語から分離して生まれたものでないの

れば),少なくともある同じルーツからアルタイ諸語と韓国語が分離して生まれたのであろうというのが李基文(1972)の結論であり,韓国學會の代表的見解であると見なすことができる.

日本語は韓国語とかなり近い関係にあると言える.日本語は何よりも前述した共通特徴及び有形上の特徴類型において,大部分韓国語と一致する.その完全な一致に比べ具体的な語彙や文法形態での一致が貧弱であることが,障害になってきたが,二つの言語が一つの系統に属する可能性に対して肯定的な見解が受け継がれてきた.勿論日本語は韓国語よりもその系統を樹立するのがさらに難しい言語として見なされてきた.アルタイ語族に属する可能性もそれほど高くはないという見方がされてきた.さらに日本語の系統をオーストラネシア語族に関連づける,いわゆる南方系説も長きにわたり主張されてきた.しかし日本語が韓国語と近い関係にあり同時にアルタイ語族に属する可能性が高いという見解が日本の學者の間で最も高い支持を得ているのも事実である.

結論として,現在では韓国語がある一つの語族に属するならば,どの語族よりもアルタイ語族に属する可能性が最も高いということだけは確実であると考えなければならない.ただ現在に至っても,アルタイ語族自體の成立に懐疑的な見解があることだけは,いかんともしがたい.従って韓国語の系統がもう少し確固とした基盤を得ようとするならば,アルタイ語族の成立がより確固なものとなるような証明が必要である.

4. 韓国語の有形的特徴

韓国語は英語を含めた印歐語と比較すると,様々な点が對照的である.それは何よりも英語などがSVO言語であるのに對し,韓国語はSOV言語であることに起因し生じる違いである.韓国語はいつも動詞が文章の最後に来る,言い換えれば動詞文末言語である.

韓国語は前述したように膠着語でもある.名詞が例文(1)のように様々な種類の助詞を取り,何よりも動詞(及び形容詞)語幹に結合する語尾が驚くほど多く,その語尾が重要な文法的機能を果たしている.

- (1) a. 강아지-가 귀엽다.
- b. 강아지-를 잘 돌보아라.
- c. 강아지-에게 물을 주어라.

例文(2)のように時制も語尾によって決められ,例文(3)のように敍述文になるのか疑問文または命令文になるのかも,文章の最後の語尾によって決定されるのである.そして後で扱う敬語法も殆んど語尾によって區別される.笑い話として,英語は重要なことが文章の前のほ

うで決定されるのに對して,韓國語はそれが後ろのほうで決まることをいうのだが,これももっともな話である.

- (2) a. 꽃이 언제 피-니?
b. 꽃이 언제 피-었-니?
- (3) a. 민호가 책을 읽-는다.
b. 민호가 책을 읽-니?
c. 민호가 책을 읽-어라.

韓國語の活用は、形容詞も動詞と殆んど一致する.この點はbe動詞の助けなしでは敘述語になることもできず,時制も表すことができない英語の形容詞とはかなり違った點である.韓國語で形容詞は獨立した品詞というよりも,動詞の下位分類とすることがよいほど多くの面で動詞と一致する點が多い.

- (4) a. 마당이 넓-다.
b. 마당이 넓-었-다.
c. 마당이 넓-었-니?
- (5) a. 동생은 키가 크-다.
b. 아버지는 키가 크-시-다.

韓國語では修飾する言葉が必ず被修飾語の前に置かれる.冠形語が名詞の前に置かれ副詞は動詞の前に置かれる.名詞を修飾する關係節もその名詞の前に置かれる.形容詞が名詞の後ろにも置くことができるフランス語や,また關係節が必ず名詞の後ろに置かれ,副詞が動詞の後ろに来ることが一般的な英語とは對照的である.そして英語の前置詞に該當する韓國語の單語は必ず名詞の前に置かれるので,前置詞のように名前をつけるなら後置詞であり,また關係節が右に枝を伸ばす,右に廣がる言語であるのに對し,韓國語は後置詞的言語であり,關係節が左に枝を伸ばす,左に廣がる言語であると言える.

敬語法が發達していることも韓國語の見逃すことができない特徴である.英語ではyou一つで友達,父,先生を指すことができるが,韓國語では決してそうではない父,先生を代名詞で呼ぶことは殆んどあり得ないことである.また主語がどんな身分の人なのかによって例文(9)のように區別しなければならない.そして英語では「バスが來た」という表現を聞き手が誰

であっても同じ形式で表すが,韓国語では例文(10)のように聞く人が誰かによって次のように文末語尾を適切に變えて,少なくとも4つ,多ければ6つぐらいまで異なった表現をする。

- (9) a. 아이가 뛰-ㄴ다.
b. 아버지가 뛰-시-ㄴ다 .
- (10) a. 버스가 오-ㄴ다. (大學教授が子供や若い人達,または仲の良い昔の友達に)
b. 버스가 오-네. (大學教授が大學院生の弟子に)
c. 버스가 오-아요. (와요)(大學教授が自分の妻に,または知らない青年に)
d. 버스가 오-ㅂ니다. (大學教授が父や昔の恩師,または知らない老人に)

韓国語を學ぶ西洋人はよく韓国語が難しい言語であると言う.そしてそれは何よりも敬語法のためであるという.適切でない敬語法を選んで使うと無禮な人だと誤解されるし,また過度に高い等級の言葉を選んで使っても面白い人だと言われるた,その微妙な敬語法を適切に使い分けることは,韓國人にも難しい時がある.まして外國人には言うまでもないことである.日本語も事情が似ているものの,韓国語がもっと複雑で,恐らく世界の言語の中で敬語法が最も複雑に細分化されている言語は韓国語と韓国語であると考えても良い程であり,このように複雑な敬語法は韓国語の最も大きな特徴の一つと言えるであろう。

韓国語には音韻でも英語にはないいくつかの特徴がある.子音目録で唇齒音f-v,齒間音θ-ðがないことを一つの特徴として挙げることができる.また閉鎖音及び摩擦音及び破擦音にある無聲音と有聲音の對立が韓国語にはない.即ちp-b,t-d,s-z,ʃ-ʒ,k-g,の對立が韓国語にはない.これは中國語や日本語と比較しても特異な現象だと言える. その代わり,平音-濃音)-激音の對立がある. 即ちp- p'-ph, t- t'-th, ʃ-ʃ'-ʃh,k-k'-khの對立がある.従って달(月)-딸(娘)-탈(假面)などの聞き分けが,西洋人にはかなり難しいに違いない.音節末の子音は全て不破音として現われることも大きな特徴である.英語のhat,helpのt,pを破裂させる發音が韓国語では不可能である.これらを無理に破裂させようとするなら英語にはない母音[iɔ]を動員して[hɛti],[helpi]と發音するしかないが,實際に韓國人はこれらを外來語として受け入れる時は캠프(キャンプ),벨트(ベルト)のように母音を添加して發音することが多い。

韓国語は西洋人にはいろいろと神秘的な感じがする言語かも知れない.見方によれば印歐語にはない特徴だけを集めている言語のように見えるかも知れない. しかしこの世界にそのような言語はあり得ないのである.神秘的なところがあるのなら,その正體は何なのか,そしてどんな言語であろうとも普遍的に持っている特徴を韓国語はどのくらい持っているのかを,いくつかの章に分けてそのベールを一枚ずつ捲っていくことにする。

- 1 韓国語はどこでどのくらい使われていますか？
- 2 韓国人が使用してきた文字にはどんなものがありますか？
- 3 韓国語の系統を推定してみましょう。
- 4 韓国語の類型的特徴にはどんなものがありますか？

この時間では韓国語の概観について学習をしました。

次の時間では韓国史/韓国の自然と経済、社会について学習をします。

お疲れさまでした。